

平成 29 年度 学校経営計画

附属中等教育学校

校長 藤田 弘嗣

昨年度の学校評価や今年度の新しい状況をふまえ、平成 29 年度「学校経営計画」を定めましたので、お知らせします。

領域	テーマ	方策等（下線部：課題と認識している箇所）
学習指導	1 授業改善	主体的・対話的で深い学びを実現するため授業改善に取り組む。全専任教員は授業アンケートを実施し、評価平均3.0以上を <u>実現できるよう最大限の努力を払う。</u>
	2 教育課程	新教育課程を継続実施する。また新学習指導要領の動向をふまえながら、必要な教育内容の見直しを図る。「道徳」については、内容上の検討をふまえつつ、前期課程で実施する。
	3 協同学習	協同学習について研究開発事業やSGHとも連携しつつ、 <u>理論的に再整理しつつ継承を図り、後期課程での実践を広げる。</u>
	4 Kobeプロ	卒業研究をはじめとするKPに関する各種書式を統一すると共に、実績を共有できるよう資料整理等を行う。調査用図書 <sup>の</sup> 拡充を図り、 <u>部門ごとの教員コンファレンスを実施する。</u>
	5 ICT教育	プロジェクター等の環境整備をふまえ、ICT教育を発展させ、研修を通じた共有化を図る。新学習指導要領の動向をふまえ、 <u>情報科を中心に中期計画を策定する。</u>
	6 食育指導	ESD(及び道徳)の一貫として教科の枠をこえた食育の充実を図り、給食を授業時間の枠内で実施する。アレルギー対策としてエビペン研修を行なう。
生徒指導	7 自主活動	生徒会執行部活動及び生徒による諸行事(文化祭・体育祭・合唱祭等)を支援する。 <u>執行部との副校長懇談会を継続する。</u> 活動支援課を中心に日程変更に伴う教員の準備体制を整える。
	8 宿泊行事	学校行事改革を継続し、ケアンズ修学旅行及び新沖縄研修を成功させる。GAP宿泊行事ではSGH課題研究との関連を明確にしつつ、 <u>各宿泊行事を成功させる。</u>
	9 部活動支援	<u>各部への顧問配置を増やす。</u> 生徒等の意見・要望を集約すると共に、部活動の将来構想について検討する。外部コーチ制を拡充し、 <u>部室増設構想を策定する。</u>
	10 生活指導	<u>シティズンシップ、倫理観、人権意識の育成に関して「互いを認めあう」をキーワードに、道徳・HR等を通して、学校としての組織的な教育を行う。(→組織的な取組にならなかった)</u>
	11 教育相談	スクールカウンセラーと連携した教育相談事業を継続する。QU活用を定着させ、 <u>個々の生徒に応じた学習支援体制を継続する。</u>
	12 生徒福利	購買部設置3年目にあたり、生徒会・保護者の要望を踏まえ、 <u>必要な改善を検討する。</u> 神戸大生協の運営をサポートする。
進路指導	13 進路指導	<u>学習困難生に対する相談体制を整備する。</u> 後期課程での進路に関する指導を綿密に行うと共に、各種資料の分析などを通して、情報の組織的共有を図る。
	14 進路保障	6年では、生徒の進路希望実現に向けた進路指導・相談を丁寧に行うと共に、 <u>進路保障に尽力する。</u>
	15 進路広報	進路情報の公開を継続すると共に、学年保護者会等を通して、前期課程も含めた生徒・保護者への進路広報活動を強化する。
研究政策	16 キャリア教育	<u>グローバル教育とキャリア教育の関連について理論上の整理を行う</u> と共に、神戸大学day等の事業を研究部主体で実施する。全学年を通してキャリア教育に力を入れる。
	17 SGH 研究開発	SGH指定3年目。 <u>事業を定着させると共に報告会・公開授業研究会等を成功させる。</u> また、中間評価をはじめとする検証評価を実施すると共に、事業ごとの評価を行う。
	18 SGH	SGH「課題研究」については、卒業研究の枠組みを利用して継続実施する。教

	課題研究	員の指導体制，評価制度を強化すると共に，4領域ごとの大学の支援体制を整備する。
	19 SGH 国際交流	GAPを計画的に実施し， <u>マイルージ制について丁寧な説明を行う。</u> ケンブリッジCVCとの交流校協定交渉を行う。 <u>留学生受入れ等を円滑に進める。</u>
	20 地歴研究開発	研究開発学校延長1年次にあたり，新科目「地理総合」，「歴史総合」の研究開発を実施する。学術会議等との連携を深め，運営指導委員会，公開授業研究会等を円滑に行う。
	21 研究活動	公開授業研究会とSGH報告会は1日開催とし，一体的に実施する。道徳について実践研究を行うと共に，ユネスコスクール(ESD)の視点をふまえ，神戸大学の事業に協力する。
危機 管理	22 安全管理 安全教育	防災訓練を実施し防災意識を徹底する。神戸市の支援を得て，防災備蓄物資の拡充を図る。教員対象の研修， <u>生徒対象の感染症対策</u> ， <u>防犯・防災・衛生教育</u> を行う。
	23 情報管理	情報管理の改善を図ると共に，必要な情報機器・ <u>システムの整備を行う。</u> SGH及び英文ホームページを円滑に運営する。
	24 施設整備	懸案の第二アリーナ空調設置，舞台照明の改善など設備の整備を行う。年度別教室配備計画を策定・実施する。必要な什器を揃えると共に， <u>ICT教育環境を充実させる。</u>
学校 経営	25 人事計画	教員急減期をふまえ，交流人事等の人事配置計画を慎重に遂行する。また，校内人事配置に関する中期計画を策定・周知する。ALTの常勤化を継続する。
	26 教員研修	授業力・教育実務向上，ハラスメント対策等研修を実施する。同僚性を高める場として， <u>校内の授業公開等を活用する。</u> 各種プロジェクトや研修出張を支援する。
	27 財政措置	予算急減に対応するため，借入金を継続すると共に， <u>緊縮財政を徹底する。</u> 教育環境整備費と施設説示充実費の寄付金額について教育後援会と共に検討する。
	28 事務室連携	事務室の改組に伴う労務・財政システム，職員会議参加，電話対応等をはじめとする事務室との <u>一体的運営を定着させる。</u>
	29 保護者対応	学年保護者会の持ち方をPTA共催にする。PTSA(生徒が参加する形態)の活動を <u>推進すると共に</u> ，保護者と学校が情報共有できるよう工夫する。
	30 適性検査広報	オープンスクール，文化祭招待，適性検査説明会及び連絡進学説明会等を通して，入学適性検査の広報活動を徹底する。平成31年度入検の枠組みを検討する。
	31 適性検査実施	昨年度の総括に基づき，履修範囲をふまえた問題作成及び連絡検査及び一般適性検査を円滑に実施する。
大学 連携	32 高大連携	SGH高大連携委員会と連携し，各種事業を円滑に進める。神戸大学との高大接続入試を実施すると共に， <u>「志」入試に備える。</u> 同時に高大接続入試の検証作業を進める。
	33 一貫教育	連絡進学に関する広報活動を円滑に進めると共に，実施後の検証を行う。一貫教育センター(仮称)を立ち上げると共に， <u>英語・ESD・ヘルスプロモーション</u> 等の事業を進める。